

## 震災復興土地区画整理事業で初 森南町1丁目地区まちづくり協定、締結

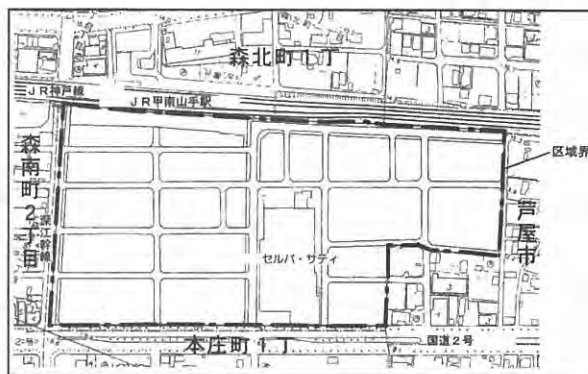
森南町1丁目地区「まちづくり協定」が平成13年12月19日に神戸市長と森南町1丁目まちづくり協議会との間で締結されました。森南町1丁目では森南第一地区震災復興土地区画整理事業を施行しており、今回の協定は震災復興土地区画整理事業地区としては初めての例で、市内では8番目となります。

森南町1丁目地区は神戸市の東部に位置し阪神・淡路大震災で約7割の建物が全壊又は半壊という大きな被害を受けました。

その後、「森南第一地区震災復興土地区画整理事業」を着手し、道路、公園等の整備が進みました。これにより建築物の建て替えが進んだことに加え、JR甲南山手駅の開業(平成8年10月)もあり、住環境の変化や住宅と店舗の共存等への関心が高まったことからまちづくり協定の締結に至りました。



地区位置図



まちづくり協定の区域

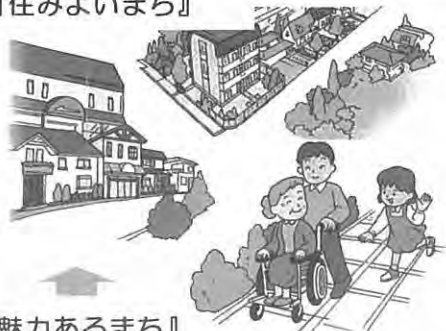
### 協定の主な項目

- 建築物の用途の制限
- ファミリー形式住戸の推奨
- 垣・柵等の形態等の配慮
- 周辺環境への配慮
- 生活マナーの遵守

### まちづくりの目標

良好な住宅地と活気のある街が両立する、健全で魅力的なまち

#### 『住みよいまち』



『健全で魅力あるまち』

『安心して過ごせるまち』

周囲の環境と調和した建築物の色彩、意匠



門灯の設置

植栽の併設

協定イメージの一例 (パンフレットより)

# 市民活動懇話会を開催

去る1月24日、こうべまちづくり会館において、神戸市市民局市民活動支援課主催による「市民活動懇話会」を開催しました。今回のテーマは、これまでの使い捨て文化を見直し、環境にやさしく、環境を思いやった循環型社会の実現に向けた市民主体の地域活動として、今後の発展を期待されている「エコタウンまちづくり」に取り組んでおられる方々6名にお集まりいただきました。

懇談では、各地域での取り組み状況や、今後活動を広げていく上での計画など情報交換を行い、環境を守っていくことの大切さと、身近なことから少しずつでも取り組んでいくことの重要性を再確認して閉会しました。

## 「エコタウンまちづくり」ってなあに？

「エコタウン」は、市民が主役となって、積極的に環境にやさしい行動（できるだけ環境に負担をかけない行動や環境を思いやる行動）を、選択しながら生活していくようなまちです。

そして、ひとりでも多くの方がこのような行動を選ぶことができるよう、「環境」をキーワードとしたコミュニティ活動の中で、地域ぐるみで進めるまちづくりのことを「エコタウンまちづくり」といいます。

エコタウンまちづくりは、皆が楽しみながら行動し、行動をすれば達成感などの満足度が高められるような活動で、5つの活動テーマがありますが、具体的な活動内容は、地域の皆さんが工夫して決めるのが基本です。

神戸市では、これから取り組みを始めようとする地域の皆さんの参考となるよう、実践活動の基本メニューを用意しました。最初は無理をせず、少人数からスタートし、徐々に活動の輪を広げていきましょう。

### 【実践活動基本メニュー】

- ① 参加者や回収量を増やしながらの資源集団回収
  - ② まちのマナーアップ&クリーン作戦
  - ③ 家計にやさしいエコチェック
- ニュースレターなど広報活動

（出席者）

○東灘区・繁栄自治会 会長 佐野 末夫 氏

○北 区・NPOウイズユキたごよう

理事 門脇 修 氏

○北 区・有野台エコタウンクラブ

代表 中来田 保 氏

○長田区・エコタウン野田北サークル

代表 浅山 三郎 氏

役員 河合 節二 氏

○西 区・玉津婦人会 会長 井上 智津子 氏



## エコタウン5つのテーマ

- 情報の発信・共有や環境学習
- ごみ減量・省エネ
- まち美化・マナー啓発
- 自然とのふれあい
- 子どもの環境学習

## 循環型の社会を目指して

わたしたちの便利な暮らしは、環境に大きな負担をかけ、今や地球規模の問題にもなっています。このような問題を解決していくためには、わたしたち一人ひとりがもう一度、自分の生活をふりかえり、できることから、環境にやさしい行動をしていくことが大切です。

今後、限りある資源や豊かな自然を子どもたちに残していくためにも、これまでの「使い捨て文化」を見直し、「循環型社会」に転換していく必要があります。

エコタウンまちづくりは、循環型社会の実現に向けての市民主体の取り組みです。皆さんの粘り強い取り組みにより、神戸市全体を循環型の都市にかえていきましょう。

【お問い合わせは】

環境局減量リサイクル推進課

Tel: (078) 322-5313

# 歴史をいかしたまちづくり 3～イタリアでの取り組み～

## ◆ ペルージャでの取り組み

最終回の今回は、ペルージャの取り組みを紹介します。ペルージャは日本のサッカー選手が在籍したこともあり、まちの名前をご存知の方は多いと思いますが、ローマの北約 100 km に位置する山岳都市です。

ペルージャは BC8 世紀～BC2 世紀に発展したエトルリア文明に源を發し、また中世時代にも栄えた都市です。チェントロ・ストリコは丘陵部分に位置し、地形が起伏に富んでいるため、他都市の多くが旧市街



ペルージャの遠景

地を中心としてスプロール的に新市街が広がっていったのとは対照的に、旧市街と新市街はある程度独立しているのが特徴です。

まちが形成されていくにあたり城塞が築かれてい



まちを巡る城塞の内部

たのは他都市と同じで、それが今でもあちこちで見ることができます。ここでは来街者は地区外に整備された駐車場に車を置き、そこから徒歩によってチェントロ・ストリコに入ることに

なっています。かなり傾斜のある地形のため、駐車場から

市街地の中心地となるイタリア広場までは約 50m の高低差があり、そこには 6 台（総延長約 360m）のエスカレーターが整備されています。これを利用してチェントロ・ストリコ内に入っています。当然そのエスカレーターはまち周囲に巡らされている城塞の中を通過しています。この城塞はパオリーノ城塞と呼ばれ、エトルリア時代から城塞として、またそれ以降もまちの一部として使われてきたものですが、まちが広がり始め、今の形に形成さ



城塞内のエスカレーター

れる頃に、内部を埋めてしまいました。そのため、城塞の中には、エトルリア時代からローマ時代にかけて使われていたであろう道や家などの遺跡が発掘され、そのまま残されています。この城塞の中は、現在は主

に通過空間として使われていますが、同時にその歴史性を保存しながら、イベントや展覧会、定期的なマーケットなどを開催して、人が集まる空間となるよう工夫されています。

ペルージャのチェントロ・ストリコも他都市と同様、日常の買物が不便であることや、車輛進入制限があることから、家族の多い若い世帯には居住空間としては向かず、全体的に高齢化が進み、また専門店的な店舗や事業所が増えつつあるという傾向にあります。店舗や事業所が増えると、夜間人口が減少し、治安が悪くなるといった悩みがあり、90 年代後半に入ってから、新しく市街地を広げるより今あるまちを充実させることを目指して

います。ゾーン毎に用途規制をしたり、いろいろな年齢層が居住できる住宅を増やすなどして、チェントロ・ストリコの再生に力をいれています。最近では車が増加し、既存の駐車場では足りなくなっています。そこで、郊外に大規模な駐車場を整備し、そこから「ミニメトロ」（モノレールのようなもの）を整備する新たな計画を立て、州や国との具体的な調整に入っており、数年後にはまた新たな景観が加わることとなります。歴史的まちなみ保存に近代文明をうまく利用して、まちを再びまちらしくしようと頑張っている都市でした。

## ◆ おわりに

3回にわたって、3つの都市を簡単にご紹介しましたが、イタリアでは、それぞれの都市が、それぞれの地形や規模に合わせた取り組みを行っています。その中で共通しているのは、『まちの歴史は自分達の文化で、大切に守らなければいけない』という思いが多くの人に浸透していることです。自分達のまちを誇りに思っ

て大切にしようとする人々の生き方が、イタリアの魅力を生み出していると思います。また、歴史的まちなみを保存するだけでなく、ハード・ソフトの両面から新しい考え方もどんどん導入して、人に『使われるまち』を目指していることです。日本でも、より多くの人々が『自分達のまちや歴史は文化である』という意識を持ち、また自然な形で新たなまちの魅力を生み出せるようになりたいと感じた旅行でした。

いちか 泰子（都市計画局まちづくり支援室）



# まちセンのイベント情報

復興まちづくりセミナー

## まちの復興・地域文化のつどい

### ◆ 報道カメラマンの目で見たまちの復興

東京経済大学助教授森反章<sup>もりたんあきお</sup>氏による震災後の神戸の定点観測写真を使ったお話（14時頃から）  
 定点観測を撮り始めた毎日新聞社カメラマン故関美比古氏とその事業を引き継いだ先輩カメラマンの写真を使いながら

### ワンディ・ライブカフェ

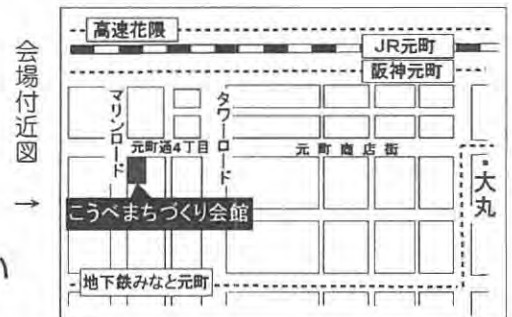
3月17日(日)11時、まちづくり会館1階にオープン・18時閉店

- ◆ 復興を支えてきた地域の人たちによる、文化のつどい
- ・アマチュアミュージシャンによるライブ
- ・屋台等で神戸の食文化の紹介
- ・神戸を描いた絵画作品の展示 など

主催 ひょうごまちづくりセンター・こうべまちづくりセンター

共催 いきいき下町推進協議会

会場には駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください



## 新長田・歩いて暮らせるまちづくりシンポジウム

～個性を活かしたにぎわいづくりのアイデアと実践～

- ◆内容◆ 新長田を「歩きたくなるようなまち」にしていくためのアイデアを考えるシンポジウム  
 大阪、京都で個性的なまちづくりに取り組む方々をお招きし  
 まちの賑わいづくりの方策を考えます

◆開催日程◆ 平成14年3月23日(土曜日)13:30~16:30

◆場所◆ アスタスクエア(神戸市長田区久保町6丁目)

◆募集人数◆ 180名(先着順)

◆申込方法◆ お名前、住所、年齢、職業、電話番号を明記のうえ  
 Fax、郵送、e-mailでお願いします

主催：新長田・歩いて暮らせるまちづくりシンポジウム実行委員会

〔(株)神戸ながたTMO・新長田まちづくり(株)  
 神戸商工会議所西神戸支部・こうべまちづくりセンター〕

協力：神戸市、くつのまちながた神戸(株)・西神戸商店街連合会  
 長田区連合婦人会・長田区まちづくり協議会連絡会

申込、詳しいお問い合わせは  
 こうべまちづくりセンター  
 〒650-0023  
 中央区元町通4丁目2-14  
 電話078-361-4523  
 FAX078-361-4546  
 e-mail  
 mati@kobe-toshi-seibi.or.jp

## まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
3月 7日(木)~12日(火)	全日本写真連盟兵庫県本部 委員展 入選作品展	全日本写真連盟兵庫県本部
3月14日(木)~19日(火)	第5回神戸墨酔会展(水墨画)	神戸墨酔会
3月21日(木)~26日(火)	第26回兵庫倶楽部写友会写真展	兵庫倶楽部写友会
3月28日(木)~4月2日(火)	フランス額装飾阪本宣子&生徒作品展	額装工房アールデコ

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

3月1日(金)~31日(日)	2002 FIFA ワールドカップ ホストシティポスター展	教育委員会 ワールドカップ推進室
----------------	----------------------------------	---------------------